

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マーブル府大前アカデミア		
○保護者評価実施期間	令和7年 7月 28日		～ 令和7年 10月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	令和7年 7月 28日		～ 令和7年 10月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 9月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アットホームで落ち着いた雰囲気があり、子どもが安心して過ごせる。	子どもが安心して過ごせるよう、まずは一人ひとりの特性や気持ちに寄り添った声かけを意識しています。 職員間で子どもの様子を共有し、対応の仕方に一貫性を持たせることで、安心できる環境づくりを心がけています。	今後は、子どもたちがより主体的に安心して活動に取り組みめるよう、環境設定やプログラムの幅をさらに広げていきたいと考えています。 また、保護者との情報共有を一層充実させ、ご家庭と連携した支援を行うことで、子どもが日常生活全体で安心して成長できる体制を整えてまいります。
2	子どもが自分の発想を自由に表現できる創作活動を多く取り入れている点です。 作品づくりを通して、子ども一人ひとりの個性や得意を尊重し、自己肯定感につながる支援を行っています。	創作活動では、決まった形を求めるのではなく、子どもの発想や工夫を大切にすることを意識しています。 職員は「どう表現したいか」を引き出す声かけを行い、完成した作品をみんなで認め合うことで、自己表現の楽しさや達成感を実感できるようにしています。	今後は、子どもたちの作品を展示する機会を増やしたり、地域や保護者に発信する取り組みを進めていきたいと考えています。 また、創作活動に留まらず、外出先や自然の中で得た体験を表現に結びつけられるよう、活動内容の幅をさらに広げていきます。
3	当事業所の強みは、保護者との連携を大切にしている点です。 日々の様子を共有しやすい雰囲気をつくることで、保護者からも安心して相談していただける関係を築いています。	連絡帳や送迎時の声かけを通じて、その日の子どもの様子をこまめにお伝えするようにしています。 また、家庭での様子やご要望をお聞きし、それを支援に活かすことで、子どもがより安心して成長できるよう取り組んでいます。 職員間でも情報を共有し、保護者と一貫した支援ができるよう心がけています。	今後は、定期的な面談や保護者向けの情報発信をさらに充実させ、子どもの成長と一緒に確認し合える機会を増やしていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもが気持ちを落ち着けたいときに利用できる、十分なクールダウンスペースが少ない点が課題です。	限られた室内スペースの中で活動エリアを確保しているため、静かに過ごせる環境を十分に整えることが難しい状況にあります。また、子どもによって必要とする環境(静かな空間、個別のスペースなど)が異なることも要因の一つです。	今後は、既存のスペースを工夫して仕切りや家具の配置を見直し、子どもが安心してクールダウンできる小スペースを設けることを検討しています。 また、環境面だけでなく、子どもの状態に合わせた声かけや活動の切り替えを工夫することで、安心して気持ちを整えられる体制づくりを進めてまいります。
2	現在、地域交流や地域の方との関わりの機会が少ない点が課題です。	新型コロナウイルスの影響や安全面への配慮から、外出や地域の行事への参加が制限されてきたことが一因です。また、職員体制や送迎の関係で、地域活動に十分な時間を割くことが難しい状況もあります。	今後は、近隣の公園や公共施設の利用を増やすほか、地域の団体や学校と連携して、子どもが安心して参加できる交流の場を徐々に広げていきたいと考えています。まずは小規模な交流から取り入れ、子どもが地域社会に自然に溶け込めるよう工夫を進めてまいります。
3	タブレット等を活用した支援や、保護者との情報共有の仕組みづくりが十分に整っていない点が課題です。	現場の活動や保護者連携におけるICTの活用方法が確立されていません。また、職員によって得意・不得意に差があり、統一した活用が難しい状況です。	今後は、タブレットや専用アプリを活用して活動中の様子を簡単に記録・共有できる仕組みを取り入れたいと考えています。保護者にも分かりやすく情報を伝えられるよう工夫し、事業所と家庭がよりスムーズに連携できる体制を整えていきたいです。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	マーブル府大前アカデミア							
	公表日 令和7年10月24日							
	利用児童数 39名 令和7年10月24日 回収数 28名							
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	8	1	2	もう少し広くてもよい。 目の届きやすい広さである。	子どもたちが安心して活動できるよう、 スペースの配置や環境を工夫し、より快 適に過ごせるよう努めてまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1		8	実際の比率が把握できない。	の方にも安心していただけるよう、今後 は説明や情報提供を丁寧に行っていきたい です。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	4		3		引き続き、子ども一人ひとりの特性に応 じた環境整備や、安全で安心して過ごせ る空間づくりに努めてまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	3	1	2	靴置き場と室内の区別がつきにくい。	靴置き場と室内の区別が分かりやすくなるよ う、表示や配置の工夫を行い、清潔で心地よ く過ごせる環境づくりに努めてまいります。
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	4		3		引き続き、子ども一人ひとりの特性や発 達段階を的確に理解し、専門性を生かし た支援の充実に努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	2		2	支援プログラムが分からない。 漢検や英検取得を目指すプログラムがよ く分からない。	支援プログラムの内容や目的について、保護者の方 にも理解していただけるよう、説明や案内方法を工 夫し、わかりやすい情報提供に努めてまいります。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26	1		1		引き続き、子どもと保護者のニーズを的確に把握 し、客観的な視点に基づいた個別支援計画の作成 と、計画に沿った適切な支援の提供に努めてまい ります。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	2	1	5	ガイドラインが分からない。	放課後等デイサービスガイドラインの 内容や、それに基づく支援計画との関係に ついて、保護者の方にもご理解いただけ るよう、説明の機会や資料の工夫を行 い、分かりやすい情報提供に努めていき ます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24	3		1		今後も、放課後等デイサービス計画に基づいた支援 の実施と、その内容の見直しを丁寧に行いながら、 より質の高い支援を提供してまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	2	1	3	イベントの開催日が固定化されている。	イベントの開催日や内容が固定化されないよう、子 どもたちの興味や季節に合わせて柔軟に企画を検討 し、多様な活動を提供してまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	4	4	13	定期的にあるか知りたい。	現在は地域や他機関との交流の機会はありません が、今後は子どもたちの成長や社会性の発達につな がるよう、地域とのつながりや交流の機会を検討し てまいります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27	1			支援プログラムが何を指すのかが分から ない。	支援プログラムの内容や目的について、保護者の方 にも分かりやすくご理解いただけるよう、説明の方 法や資料の工夫を行い、丁寧な情報提供をしていき たいです。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28					今後も、放課後等デイサービス計画をもとに 支援内容を丁寧に説明し、保護者の方にも安心 してご理解いただけるよう努めてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	5	5	7	ペアレントトレーニングは行っていな い。 広報誌やSNSでの情報提供がある。	現在はペアレントトレーニングの実施はありません が、保護者の方が家庭でも支援に活かせる情報を得 られるよう、引き続き広報誌やSNS等を活用した情 報提供を充実させてまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	26	2				今後も、保護者の方との日々の連携を大切に し、子どもの健康や発達状況について共通 理解を深めながら支援を行っていきたく いです。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	4	3		年に何回かハッキリとした名言がない	面談や助言の実施回数や時期について、保護者の方 にもわかりやすくお伝えできるようにし、今後も定 期的な面談や子育て支援の充実に努めていきたく いです。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	3		2		今後も、子ども一人ひとりの気持ちに寄 り添い、共感的な関わりを大切にした支 援を行ってまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	6	4	6	12	行っていない。	現在は保護者会やきょうだい向けのイベ ント等は実施していませんが、今後は保 護者同士やきょうだい同士の交流の機 会についても検討し、家族全体を支援で きる体制づくりを進めてまいります。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	3	2	3	相談や申し入れをしたことがない。	今後も、相談や申し入れの窓口や対応体 制について保護者の方にも分かりやす くお伝えし、安心して相談できる環境づく りを進めてまいります。	

	20	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	26	1		1		今後も、子どもや保護者の方との意思疎通を大切に、わかりやすく丁寧な情報伝達を心がけていきたいです。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	5		4	インスタでの投稿を増やしてほしい。	今後は、Instagram等のSNSでの発信を充実させ、事業所の活動内容や行事予定などをより分かりやすくお伝えできるようにしていきたいです。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24	1		3		今後も、個人情報の適切な取り扱いを徹底し、保護者の方に安心してご利用いただけるよう努めていきたいです。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	1	7	周知されているか分からない。 訓練が実施されているか分からない。	事故防止や緊急時対応に関するマニュアルや訓練の実施状況について、保護者の方にもわかりやすくお伝えできるよう周知方法を工夫し、安心してご利用いただけるよう努めていきたいです。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	3	1	9	訓練が行われているかわからない。	避難訓練などの実施状況について、保護者の方にもわかりやすくお伝えできるようにし、今後も非常災害に備えた訓練を定期的実施していきたいです。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	2		6	安全計画が何を指すのか分からない。	安全確保のための計画や取り組み内容について、保護者の方にもわかりやすくお伝えできるよう説明を工夫し、安心してご利用いただける環境づくりを進めていきたいです。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22	1		5	発生した際の対応について、事前の説明が欲しい。	事故等が発生した際の対応や連絡の流れについて、事前に保護者の方へ丁寧に説明し、ご理解いただけるよう努めていきたいです。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28				自分の居場所があり、安心して通えています。	今後も、子どもが自分の居場所として安心して通える環境づくりを大切に、安心感のある支援を継続していきたいです。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	28					今後も、子どもが通所を楽しみにできるような活動や雰囲気づくりを心がけ、笑顔で過ごせる環境を整えていきたいです。
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	2			落ち着いた日も丁寧に聞き取りをしてくださったり、適切に対応して頂いております。 長期休暇の際にイベントを増やしてほしい	「今後も、保護者の方や子どもたちにより満足していただけるよう、支援の質の向上とサービス内容の充実に向けていきたいです。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		マール府大前アカデミア		公表日		令和7年 10月 24日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		4	2	支援室等のスペースに応じた利用定員となっている。	活動内容や子どもの特性によっては、支援室の広さに対して窮屈さを感じる場面がある。そのため、環境設定や活動の組み合わせに工夫が必要である。今後は、家具や備品の配置を見直し、スペースを有効活用することで、子どもがより快適に過ごせる環境づくりを進めていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		4	2	利用定員に応じた人数を配置している。	今後は、勤務シフトの調整や役割分担の明確化を進め、より安心して支援できる環境を整えていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5	1	特性に応じ視覚支援等を取り入れ、分かりやすくスケジュールを把握できるようにしている。	今後は、環境のゾーニングや視覚的な工夫を取り入れるとともに、必要に応じて設備面の改善や表示の工夫を行い、子どもがより安心して過ごせる空間づくりを進めていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5	1	活動によって空間を分けて過ごしている。	日常的に清掃や整理整頓を行っているが、活動内容によってはスペースが手狭に感じられることや、物の配置により快適さが損なわれる場合がある。今後は、清掃や環境整備の徹底に加え、活動に応じて家具や備品の配置を工夫し、子どもがより心地よく過ごせる空間づくりを進めていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5	1	必要に応じ、個室を使用し落ち着いて過ごせるように環境を整えている。	子どもの特性や状況に応じて個別対応を行っているが、専用の部屋や落ち着けるスペースが限られており、十分に活用できない場合がある。今後は、仕切りや家具の配置を工夫し、簡易的でも子どもが安心して一人になれる環境を整えることで、必要ときに個別の空間を確保できるよう改善していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		4	2	PDCAサイクルに基づきスタッフ間で適時会議を行っている。	今後は、ミーティング内容を共有できる仕組みを整えたり、短時間でも意見を出せる場を設けるなど、全職員が参画しやすい方法を工夫していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4	2	定期的に保護者向けのアンケートを実施し、保護者の意向を把握し、業務改善に繋げている。	今後は、アンケート結果の分析や改善点をより明確にし、職員全体で共有・実践する仕組みを強化していきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		3	3	定期的に職員向けにアンケートや会議を実施し、業務改善に繋げている。	今後は、意見を記入できる仕組みや短時間でも意見交換ができる場をより取り入れ、全職員の声を業務改善に生かしていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	4	外部評価は未実施ではあるが、相談支援専門員のモニタリングの際に事業所の様子を見ていただき、支援に関する助言を受ける機会を設けている。また、必要に応じて他機関との情報共有を行い、外部の視点を取り入れるよう努めている。	今後積極的に第三者による外部評価を行ってきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		4	2	適宜社内での研修を行っている。	今後は、オンライン研修や資料の共有など、多様な方法で学ぶ機会を確保し、職員の資質向上につなげていきたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		5	1	保護者や本人のニーズを伺い、支援プログラムの作成と公表を行っている。	支援プログラムは作成しているものの、内容の公表や保護者への周知の仕方が十分ではなく、一部の職員から改善の必要性が指摘されている。今後は、プログラムの内容をわかりやすくまとめ、保護者や関係機関と共有できる仕組みを整えていきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		5	1	適宜アセスメントを行い、計画を作成している。	アセスメントは実施しているものの、こどもや保護者のニーズ・課題をより客観的かつ具体的に分析する点に課題がある。また、得られた情報を計画に十分反映しきれていない場合もある。今後は、記録の充実や多面的な情報収集、関係機関との連携を図り、より適切な支援計画の作成につなげていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		5	1	職員間でモニタリングを行い情報共有を行ったうえで、こどもの最善の利益を考慮した検討を行っている。	支援計画は児童発達支援を中心に作成し、常勤職員との共有・検討は行っているが、非常勤職員は業務の性質上参加できていないため、全職員での共通理解には課題がある。今後は、非常勤職員にも計画の概要や支援方針をわかりやすく伝える仕組みを整え、全員が子どもの最善の利益を共有できるよう改善していきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		5	1	職員間で情報共有を行い、計画に沿った支援を行っている。	支援計画は作成し常勤職員を中心に共有しているが、非常勤職員には内容が十分に伝わらず、計画を意図した支援が徹底されにくい場面がある。今後は、計画の要点をわかりやすくまとめて周知するなど、全職員が共通理解を持って支援に取り組めるよう改善していく必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		4	2	日々の行動観察や支援記録を通じて適応行動の把握に努めている。	今後は外部の専門機関との連携も含め、より体系的に確認できる体制を整えていきたい。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	それぞれの内容を踏まえながら適宜支援内容を設定している。	支援計画には必要な視点を踏まえて作成しているが、ガイドラインの4つの観点（本人・家族・移行・地域）が十分に反映されていないと感じる職員もおり、支援内容が抽象的にとどまる場合がある。今後は、計画作成時に各観点を確認できる仕組みを整え、より具体的で実行可能な支援内容を設定できるよう改善していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2	スタッフ間で意見を出し合いながらチームで立案している。	活動プログラムの立案はチームで行っているが、実際には担当者に負担が集中し、十分に意見を出し合っていない場面がある。今後は、職員全員が企画に参画できるよう役割分担やアイデア共有の仕組みを整え、より多様で充実したプログラムにつなげていく必要がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	2	毎週内容の違う活動プログラムを行っている。	土曜日にはイベントを実施し変化を取り入れているが、平日の活動は固定化しやすく、子どもの多様な興味や成長に十分応えられない課題がある。今後は、短時間で取り入れられる活動や季節に応じた工夫を加えることで、平日もバランスのとれたプログラムを提供できるよう改善していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	2	子どもの特性や発達状況に応じて、個別活動と集団活動を適切に組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	個別活動と集団活動を組み合わせた支援は行っているが、活動内容や時間の都合により、個別支援が十分確保できない場合がある。今後は、プログラム作成時に個別活動の時間を意識的に設定し、子ども一人ひとりのニーズに応じた支援が計画通りに行えるよう改善していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	毎日支援前に職員間でミーティングを行っている。	支援開始前に打合せは行っているが、非常勤職員は勤務時間の都合で参加できず、全職員での共通理解や連携が十分でない場合がある。今後は、打合せ内容を共有する掲示や簡易資料を活用するなど、非常勤も含めた全職員が情報を把握できる仕組みを整え、チームで連携した支援を徹底していく必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	毎日支援後には終礼を行いその日の情報や反省事項の確認と共有を行っている。	支援終了後に振り返りの打合せは実施しているが、非常勤職員は勤務時間の都合で参加できず、全職員での情報共有や気付いた点の共有が十分でない場合がある。今後は、簡易的な記録や共有ツールを活用するなど、非常勤を含めた全職員が振り返り内容を確認できる仕組みを整え、支援の質向上につなげていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日利用児童の支援に関する記録をとり行っており、PDCAサイクルに基づき支援の検証と改善に繋げている。	記録内容の質をさらに高めるため、記入項目や観念の統一を図り、全職員が共通の視点で支援の検証・改善に取り組めるようにしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	3	定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	定期的なモニタリングは実施しており、計画への反映も行われているが、非常勤職員は勤務時間の都合で直接参加できないため、モニタリング内容の理解や情報共有に課題がある。今後は、簡易的な報告や共有資料を活用し、非常勤も含めた全職員が内容を把握できる仕組みを整える必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	2	「自立した日常生活のための活動」と「創作活動」を中心に取り組んでおり、子どもの発達段階や興味関心を踏まえ、楽しみながら参加できるように工夫している。	地域の行事や外出活動への参加を検討するとともに、屋外での運動や体を使った遊びを取り入れるなど、4つの基本活動をよりバランスよく実施できるよう改善していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1	活動内容や遊びの種類を複数提示し、子どもが自分で選択できるようにしているほか、活動の順番や役割分担なども本人の意見を尊重して決定する場面を設けている。	定期的なモニタリングは実施しているが、非常勤職員は勤務時間の都合で聞けず、またモニタリング結果の共有や計画への反映が十分でない場合がある。今後は、全職員が結果を把握できる仕組みを整え、必要に応じて計画を見直し、支援内容の適切性をより確実に担保できるよう改善していきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービ担当会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	そのこどもの状況をよく理解した者が会議等に参加している。	会議には常勤職員が参加し、子どもの状況を把握しているが、非常勤職員は勤務時間の都合で参加できず、情報を十分に共有できない場合がある。今後は、会議内容や決定事項を簡易的に共有する仕組みを整え、非常勤を含む全職員が子どもの状況を理解した上で支援に関わるよう改善していきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	5	学校とは定期的に情報共有を行い、支援に反映している。また、医療機関に関しても必要に応じて主治医とのカンファレンスや電話連絡を行い、子どもの健康状態や支援の方向性について情報交換をしている。	学校や医療機関との情報共有は実施しているが、頻度が十分でなく、密な連携には改善の余地がある。今後は、連絡手段やスケジュールを工夫し、必要な情報がタイムリーに共有される体制を整え、支援により反映できるよう改善していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	年間行事や予定の確認、下校時刻の調整、送迎時のやりとり、トラブル発生時の迅速な情報共有などを適切に行い、子どもの安心・安全な支援につなげている。	学校との情報共有や連絡調整は行っているが、情報が十分に共有されない場合がある。また、非常勤職員は直接関わる機会が少ないため、全職員が共通理解を持つことに課題がある。今後は、年間計画や行事予定、連絡事項を定期的に整理し、全職員が把握できる仕組みを整える必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	5	保護者を通じて就学前の状況を伺い、支援の参考とするよう努めている。	今後は、必要に応じて保護者の同意を得ながら就学前の関係機関との情報交換を行い、子どもの発達経過をより正確に把握できるような体制を整えていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	当事業所ではこれまで高校卒業の利用者はおらず情報提供の実績はないが、日常的に学校や保護者と連携し、支援内容の共有に努めている。	今後、卒業を迎える利用者が出た際には、支援記録や個別支援計画の内容を整理し、進路先の事業所等に適切に引き継げるよう体制を整えていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5	その他の育成研修等に積極的に参加し、また相談支援事業所から事例に関するアドバイスをいただくなど、専門的な視点を取り入れる機会を設けている。	今後は児童発達支援センターとの連携を積極的に図り、必要に応じてスーパーバイズや助言を受けられる体制を整えていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	土曜日のイベントにおいて、地域への外出を実施し、子どもが地域の環境や他の人々と触れ合う機会を設けている。	今後は、放課後児童クラブや児童館など地域の関係機関との連携を検討し、子どもたちがより多様な仲間と関わり合える機会を作っていきたい。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5	現時点で協議会等への参加や情報収集は行っていないが、今後参加できる体制や日程調整を検討し、職員全体で地域の自立支援情報を活用できるように準備を進める方針である。	今後は積極的に参加していきたい。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	送迎時や連絡帳、面談などを通じて保護者と日常的に情報交換を行い、子どもの発達状況や課題を共有し、共通理解を図っている。	送迎時や連絡帳、面談を通じて保護者と情報交換を行っているが、非常勤職員は勤務時間の都合で十分に関わることができず、職員全体で子どもの発達状況や課題に関する共通理解が十分でない場合がある。今後は、情報共有の仕組みを整備し、全職員が保護者とのやり取りや子どもの状況を把握できるよう改善していく必要がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	保護者からご相談をいただいた際には、事業所で行っている対応方法やお子様への関わり方について個別にお話しし、家庭で活用していただけるよう努めている。	今後は、保護者の学びや交流の機会を設けられるよう、研修や情報提供の方法を検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		運営規程、支援プログラム、利用者負担等につきましては、契約時に時間をかけて丁寧にご説明し、ご理解いただいたうえでご利用を開始していただいている。	保護者からの意見・質問を継続的に収集する仕組み(アンケートや窓口)を強化し、そのフィードバックを運営規程や支援プログラムの見直しに反映させていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1	モニタリングを通して子どもや保護者のニーズや意向を確認している。	今後は、子ども本人の意思をより適切に引き出し、最善の利益を踏まえた支援につなげられるよう、面談や関わり方の工夫を意識して取り組んでいきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	1	毎回「放課後等デイサービス計画」を示して支援内容をご説明し、必ず保護者の同意を得ている。	放課後等デイサービス計画を毎回説明し同意を得ているが、非常勤職員や新任職員には手順や説明内容が十分に共有されていない場合がある。今後は、全職員が同じ方法で説明・同意取得が行えるよう、研修やマニュアルの周知を強化する必要がある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		ご家族からの子育ての悩みや相談には、お受けした際に可能な限り対応し、助言や支援を行っている。また、必要に応じて適時面談を実施している。	相談や面談の実施が個別対応中心となっているため、記録や共有体制をより整備し、支援内容を一貫して把握できるようにしていきたいです。また、保護者が相談しやすい雰囲気づくりや、定期的な面談機会の設定を通じて、より早期に課題を共有・支援できる体制を強化していきたいです。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	5	日常の送迎時や面談を通して、保護者の方と子どもの様子や子育てに関する情報を共有し、個別に支援できるよう努めている。	今後は、保護者同士が交流し学び合える場や、きょうだいが安心して関わられる機会を設けたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情やご意見をいただいた際には、速やかに内容を確認し、可能な限り迅速かつ適切に対応している。	苦情対応の手順や窓口についての周知が十分とはいえないため、保護者が安心して意見を伝えられるよう、掲示物や案内文書などで明確に周知していきたいです。また、苦情対応の経過や結果を適切に記録・共有し、再発防止やサービス向上に活かせる仕組みを整えていきたいです。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1	毎月、会社の会報を配布し、普段の活動はSNSを通じて発信している。また、イベントカレンダーを毎月作成・配布し、行事予定や連絡事項をわかりやすくお伝えするよう努めている。	会報やSNS、イベントカレンダーで情報発信は行っているが、更新頻度やタイミングの関係で、保護者が最新情報を十分に把握できない場合がある。今後は、発信のタイミングや頻度を工夫し、保護者が常に必要な情報を受け取れる体制を整えていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	1	個人情報の取扱いには十分に留意し、適切な管理を徹底している。	個人情報の取扱いは適切に管理しているが、非常勤職員や新任職員への周知・確認が十分でない場合がある。また、書類やデータ管理の運用が職員間で統一されていないこともある。今後は、研修やマニュアルの周知を強化し、全職員が同じ基準で個人情報を管理できるよう改善していく必要がある。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達において、状況に応じた配慮を行っている。	個々の障害特性に応じた伝達方法の工夫が十分とはいえないため、pictogram(絵カード)や写真、平易な言葉など多様なコミュニケーション手段をさらに活用していきたいです。また、職員間で情報共有を強化し、誰が対応しても一貫した意思疎通が図れるよう体制を整えていきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	不定期ではあるが、会社全体で地域住民を招いたイベントを実施し、地域に開かれた事業運営を意識している。子どもと地域住民が交流できる機会を設けることで、地域とのつながりを育むよう工夫している。	地域交流の機会は不定期であり、日常的に地域に開かれた事業運営ができていない。今後は、定期的な地域参加型イベントの開催や情報発信を通じて、地域との関わりをさらに充実させていきたい。
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、スタッフ間で周知を図っている。	マニュアルや訓練は実施しているが、非常勤職員や新任職員への周知や参加が十分でない場合がある。また、家族への周知や理解の徹底にも課題がある。今後は、周知の手段や訓練の回数・内容を見直し、全職員と家族が十分に理解できる体制を整えていきたい。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	4	業務継続計画(BCP)を策定し、非常災害に備えて避難・救出を含む訓練を定期的に実施している。職員間での意識共有を図り、緊急時にも迅速に対応できるよう努めている。	BCPや非常災害訓練は実施しているが、非常勤職員や新任職員が訓練に参加できない場合があり、全職員での経験や理解が十分でないことがある。今後は、参加体制や訓練の方法を見直し、全職員が緊急時に迅速かつ適切に対応できる体制を整えていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の状況を確認している。	健康状態や服薬状況の変化について、日々の確認や記録の徹底が課題であるため、保護者との連絡体制をより密にし、情報の更新を確実に行っていきたい。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	食物アレルギーのある子どもについては、保護者からの情報や指示に基づき、食事提供や間食対応などに細心の注意を払っている。また、個別対応表を作成し、職員間で情報を共有することで、安全な支援を行うよう工夫している。	現状は保護者の指示に基づく対応が中心で、医師の指示書に基づく対応が十分に行われていない場合がある。今後は、医師の指示書の取得や確認を徹底し、職員全員が統一した対応を行える体制を整えていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	3	安全計画を策定し、それに基づいて安全管理に必要な研修や訓練を行っている。	安全計画に基づく研修や訓練は実施しているが、非常勤職員や新任職員が参加できない場合があり、全職員での理解や対応の統一が十分でないことがある。今後は、研修・訓練の参加体制や実施方法を見直し、全職員が安全管理に必要な知識と対応を確実に共有できる体制を整えていきたい。

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	こどもの安全確保に関する取組については、安全計画に基づき、契約時にご家族へ丁寧に説明し、内容をご理解いただけるよう努めている。	安全計画に基づく取り組みについては契約時に家族へ説明しているが、契約後の定期的な確認や周知が十分でない場合がある。また、非常勤職員や新任職員へ内容共有が十分でないことも課題である。今後は、定期的に家族への情報提供や職員間の情報共有を徹底し、安全確保に向けた連携を強化していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止のための対策を検討・実施している。	ヒヤリハットの共有や再発防止策は実施しているが、非常勤職員や短時間勤務の職員は十分に情報を把握できない場合がある。また、共有や対策の実施が職員全体で統一されていないことも課題である。今後は、報告・共有の仕組みを見直し、全職員が同じ認識で再発防止に取り組める体制を整える必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	2	虐待防止のため、職員に研修機会を設け、適切な対応を行っている。	虐待防止の研修は実施しているが、頻度が十分ではなく、非常勤職員は参加できていない場合がある。そのため、全職員で虐待防止の知識や対応方法の共通理解が十分とは言えない。今後は、研修の頻度や内容を工夫し、非常勤を含む全職員が確実に理解できる体制を整えていきたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	3	身体拘束は原則行っていないが、やむを得ず必要な場合には、組織で判断し、事前に保護者へ説明・了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載する体制を整えている。職員間で手順を共有し、適切な対応ができるよう努めている。	身体拘束はこれまで前例がなく実施されていないため、実際に必要となった場合の対応経験や手順の確認が十分ではない。今後は、対応手順の研修やシミュレーションを行い、全職員が適切に判断・対応できる体制をさらに強化する必要がある。